



VOUGHT F4U CORSAIR

ヴォートF4Uコルセア

BUNRINDO Co., Ltd.

BUNRINDO Co.,Ltd. 3-39-2 Nakano, Nakano-ku, Tokyo 164-0001 JAPAN
TEL 03(5385)5868 FAX 03(5385)5613
PUBLISHER IMAI Kesaharu CHIEF EDITOR Yutaka YUZAWA
EDITORIAL STAFF Yukihiisa JINNO, Ryuta AMAMIYA
EDITORIAL ADVISER Ichiro MITSUI
Correspondent, Washington, D.C. Bureau
(Pictorial Press International)
Norman T. HATCH, Mikako BURKS
COVER PHOTOS JEFFREY L. ETHELL COLLECTION
COVER DESIGN MONO MAGAZINE LABO.

護衛空母CVE-118シリーズに着艦、ワイヤにフックした瞬間。機体は海兵隊VMF-323所属のF4U-4である。一時は艦上戦闘機不合格の烙印を押されかねなかったのが嘘のような、狭いデッキへの見事な着艦ぶりだ。朝鮮戦争当時、海兵隊のコレセアは護衛空母に搭載されて海兵隊地上部隊への近接航空支援に従事している。さすがに護衛空母からの発艦は滑走だけとはいかず、カタパルト発艦が多用された。

Photo : JEFFREY L. ETHELL COLLECTION Photo Caption : Toshio NONAKA

CONTENTS

- COLOR PHOTO ALBUM : The Color Photos Taken during Wartime — 4
Photos : JEFFREY L. ETHELL COLLECTION
- コレセア・カラーマーキング — 12
Illustrations and Caption : Shigeki NINOMIYA
- 不死身のベントウイングバード — 20
Photos : Michael O'LEARY
- F4U-1D CUTAWAY — 30
Illustration : Rikyu WATANABE
- 図解 : F4U機体細部 — 32
- CORSAIR PHOTO CHRONICLE : 各型写真解説 — 49
Photo Caption : Katsuhiro FUJITA
- 太平洋戦線戦闘録 — 65
Text : Katsuhiro FUJITA
- 朝鮮戦線戦闘録 — 72
Text : Toshio TAMURA
- CORSAIR IN ACTION — 78
Photo Caption : Katsuhiro FUJITA
- コレセアの開発と各型 — 97
Text : Katsuhiro FUJITA
- シリアルリスト — 106
- 技術ノート : コレセアを生んだ技術とその背景 — 108
Text : Tsuruo TORIKAI
- コレセアの父、パイゼル小伝 — 118
Text : Toshio TAMURA
- 構造とシステム — 121
Text : Hideki YAMAUCHI
- CORSAIR SCHEMATICS (コレセア図面集) — 136
Drawings : Yukio SUZUKI

不死身の ベントウイングガード

Photos : Michael O'LEARY

写真解説：野中寿雄
Photo Caption : Toshio NONAKA



第二次大戦、朝鮮戦争を戦い抜いたF4Uコルセアの最後の機体が生産ラインを離れたのは1953年1月末のことであった。以来60余年、人間でもその誕生から定年までの人生に相当する長い風雪を経て、いまなお元気に大空を飛び続けている姿はまさに奇跡としか言いようがない。その裏にはオーナーの機体にそそぐ限らない愛情、そして機体をいたわりながら万全の整備を黙々と努めるスタッフ、多くの名もなきボランティアやサポーターたちの惜しみないバックアップがあればこそだろう。カリフォルニアの澄み切った大空をダブルワスプの爆音を轟かせて飛行するコルセア。「ベントウイング（折れ曲がった翼）バード」と愛称された特徴あるスタイルではあるが、その生涯は決して挫折することはなかった。

◀ 5機編隊で飛行するF4Uコルセア。速度こそジェット機を見慣れた目にはつましいばかりだが、ダブルワスプの発する轟音は想像がつく。思い思いの塗装とマークに身を包んだその姿は独自のだが、考証的にはどうかという思いが先に立つのは、持たざる人間のやっかみだろう。何よりもビンテージな機体が存分にその飛行姿を見せてくれる、そして一日でも長く、ひとりでも多くの人の目にその姿を焼きつけてほしいと願う人々の不断の努力があればこそその結果なのだから。そしてこのような光景をぜひ一度見てみたいと思うのは、(持たざる人間でも) 誰しも同じだろう。

↓ 年の離れた弟分、A-7DコルセアIIと飛行するコルセアIV (115X/N72NW)。本機も実際はFG-1D (Bu.No.92436) で、最初エド・マロニー氏所有機だったが1974年から98年までカナディアン・ウォーブレン・ヘリテージ所有 (C-GCWX) となり、この時カナダ出身の英海軍戦闘機パイロット、R.グレイ大尉機の塗装/マーキングが施された。グレイ大尉は1945年8月9日、宮城県女川湾空襲の際に撃墜、戦死したが、この功により英海軍戦闘機パイロットとしてはただひとりのビクトリアクロス勲章を授与されている。この機体も98年には米国籍となり、現在はワシントン州のオリンピック・ジェットという団体が所有している。塗装はグレイ大尉機のままだが、複座型に改修されている。

↓ コルセアのなかでもっとも有名な機体といえばやはり17機 (16機とする文献もある) 撃墜のエース、アイラ・ケプフォード中尉機。実機はF4U-1Aだが、本機はFG-1D (Bu.No.67070) で、1957年から75年までエルサドバドル空軍 (FAS201。202説あり) で使われ、例のサッカー戦争でも出撃している。本機は75年に米国の民間業者が手に入れ、2005年に飛行可能に修復された。現在は「N29VF」の民間機ナンバーを取得、テキサス州ブルースカイ・エビエーションが所有している。

